

<金標準、介入に伴い円建て金のピークアウト・・・>



(出所：オアシス)

日銀金融政策決定会合で植田日銀総裁が記者会見で 2024 年度物価見通しの上方修正に円安の影響が若干含まれるが「今のところ大きな影響を与えているということではない」と説明した事から円相場は 1 ドル : 160 円を付けるまで円安が進み、29 日の祝日に為替市場は 155 円まで円が急騰し財務省は円買い介入を実施した憶測が流れると、1 日にも 157 円から 152 円台に円高が進み財務省の介入を 2 回実施している雰囲気である。特に雇用統計の結果を受けた利下げ観測の高まりは、金利低下の恩恵で為替市場では 151 円台まで円高が進む動きを見せている。特に円建て金価格は、円安の恩恵が消え、中東情勢で和平交渉が進むなど、地政学的なリスクの低下で逃避の金需要が後退するなど、NY 金も 2300 ドルを試すなど軟調な動きを見せている。そのため一時 11951 円まで高値を追いながら 11180 円まで反落するなど、3 月以降上昇を続けた金標準先物も 12000 円の壁を受けて調整に移行した可能性は強まっており、11000 円へ向けた下値追いには注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD は **MACD** が下げながら、**シグナル**も下げている。RCI は**短期**の上昇が止まり、**長期**は下げている。特に日足が **10 日移動平均線**を下回り、**40 日移動平均線**に近付くなど基調は下向きへ移行したと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,445,000 円(2024 年 5 月 7 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2024 年 5 月 7 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>